

日本地衣学会 No.48

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告.....	165
	第3回観察会(岡山県)の報告/安齊唯夫.....	165
	後楽園外周~岡山城(岡山市)で観察された地衣類/松本達雄・安齊唯夫...	166
	第3回日本地衣学会観察会に参加して/西平直美.....	167

会務報告 Report of the JSL Activities

第3回観察会(岡山県)の報告

今年の学会主催観察会は、岡山コケの会との共催により10月16、17日の両日にわたって岡山県下で開催された。

ケの会(略称オカモス)関係者の参加も多いため、始めに手近な木を囲んで松本講師と西村講師(蘚苔類)から地衣類と蘚苔類の違い等について基本的な説明がなされた。

*2004年10月16日(土)
開催場所:岡山県岡山市後楽園外周~岡山城
内容:地域住民も対象とした身近な地衣類の観察
講師:松本達雄(武田高校)
参加者:24名(講師を含む)

*2004年10月17日(日)
開催場所:岡山県高梁市(備中町)磐窟谷(いわやだに)
内容:石灰岩分布地での地衣類の観察
講師:松本達雄(武田高校)
参加者:19名(講師を含む)



図1. ケヤキの下で松本講師の説明に聞き入る参加者。後楽園外周にて。

今回の観察会は地元の「岡山コ

その後は、解説の輪があちこちに湧いては消え、集合離散を繰り返しながら観察を続け、次第に岡山城内を登り詰めていった。初日は都市部にみられる身近な地衣類を観察することになるだろう、と予想していたが、後楽園の外壁沿いや岡山城内には思いの外多種多様な地衣類がみられ大きな収穫であった。

記念写真を撮影し、日帰り参加者の方々とお別れした後、夕日を追いかけるように備中へと向かった。

宿は磐壜谷の入口「朝日堂」のご厄介になったが、ここはオカモス側世話人の実家とのことで、はぐれてしまった車の迎えに思い出されたり、大変お世話になった次第である。もちろん、料金、食事、部屋も申し分なく、阿哲石灰岩地のフィールド調査にはお薦めの宿である。

コケ関係者が一堂に会したところで、山本庶務幹事から日本地衣学会が紹介され、西村直樹（岡山理科大）氏からオカモスの紹介がなされた。その後は、来年の観察場所、学会の将来等を話題にひたすら飲み続けることとなったが、その一方では蘚苔類の方々が顕微鏡や図鑑を囲んでいる姿が印象に残っている。

2日目は磐壜谷溪谷である。どうやら石灰岩は谷の上部に厚く分布しているようである。途中で *Lobaria tenuis* と思われるカプトゴケを見ついたり、岩壁から多量に垂れ下がるトゲシバリに歓声をあげたりしながら谷を上がっていった。谷底を見下ろすと、蘚苔類の数人が流れの傍らでゆっくりと動いている。どうも今日は蘚苔類と地衣類に興味二分されてしまった様子である。

昼食後、遠方からの参加者は車で最寄り駅に送っていただくこととなり、慌ただしく解散式を行った。その後、時間のある方々は更に観察を続け、そのうち2名は翌日も残って標本採取をされたという。

今回の観察会は共催の形をとっているが、全ての準備を岡山コケの会に委ねてしまったのが実状である。ここに、岡山コケの会の皆さんに厚く御礼申し上げます。特に世話人の西平直美さんにはお世話になりました。感謝いたします。

(安斉唯夫：第3回観察会学会側世話人)

後楽園外周～岡山城（岡山市）で観察された地衣類

第三回観察会の折に後楽園から岡山城にかけて地衣類の観察を行った（2004年10月16日）。そのとき観察された地衣類のリストを以下に示す。なお、このリストは安斉が当日とったメモを元に、山本好和氏のメモのデータと、更に原田浩氏と我々の記憶を頼りに後日編集したものである。

- ホシゴケ属の一種 *Arthonia* sp.
- スミイボゴケ属の一種 *Buellia* sp.
- ツブダイダイゴケ *Caloplaca flavovirescens*
- ロウソクゴケ *Candelaria concolor*
- コガネゴケ *Chrysothrix candelaris*
- ヒメジョウゴゴケ *Cladonia humilis*
- シロキッコウゴケ *Diploschistes euganeus*
- コフキチリナリア *Dirinaria applanata*
- キウメノキゴケ *Flavoparmelia caperata*
- ハマキクバゴケ *Karooia saxeti*
- チャシブゴケ属の一種（レカノラ レプローサ [=レカノラ キネレオカルネア]）*Lecanora leprosa* (= *L. cinereocarnea*)
- チャシブゴケ属の一種（レカノラ ムラーリス）*Lecanora muralis*
- コナイボゴケ *Lecanora pulverulenta*
- チャシブゴケ属の一種（レカノラ スブインメルゲンズ）*Lecanora subimmergens*
- レブラゴケ属の一種 *Lepraria* sp.
- イワニクイボゴケ *Ochrolechia parellula*
- ナミガタウメノキゴケ *Parmotrema austrosinense*
- ウメノキゴケ *Parmotrema tinctorum*
- モエギトリハダゴケ *Pertusaria flavicans*
- トリハダゴケ属の一種 *Pertusaria* sp.
- クロウラムカデゴケ *Phaeophyscia limbata*
- クロウラムカデゴケ属の一種 *Phaeophyscia spinellosa*
- ムカデゴケ科の一種（フィスキエラ メランクラ）*Physciella melanclra*
- ヘリトリゴケ *Porpidia albocaerulescens*
- ハクテングケ *Punctelia borreri*
- イワカラタチゴケ *Ramalina yasudae*
- マツゲゴケ *Rimelia clavulifera*
- キクバゴケ属の一種 *Xanthoparmelia* sp.

(松本達雄・安斉唯夫)

第3回日本地衣学会観察会に参加して

地衣類と蘚苔類を同時に教えていただけるという、またとない企画にいそいそと集合場所の岡山後楽園入り口へ。10月16日、集合時間30分前には到着し、早速「岡山コケの会」の手作り旗を広げるともうすでに到着していた方が寄ってこられた。みなさん結構早めの集合です。今回の世話役の安斉さんと挨拶をして（岡山コケの会を通して何回かメールや電話でお話をしていたので初対面という感じがしなかったですが）簡単に打ち合わせ。そうこうしているうちに今日の参加者全員集合。後楽園入り口にある大きなケヤキの下で、自己紹介。そして本日の地衣類案内人 松本達雄先生と蘚苔類案内人 西村直樹先生とによるコケと地衣の見分け方からはじまり、それぞれの特徴等の説明。実物を見ながらその都度説明をということになり、旭川沿いに岡山城まで歩くことになった。あっちに地衣の輪、こっちにコケの輪、それぞれ興味があるところに散っていくところがいつもの「コケ観察会」の風景です。どちらにも興味がある私は、あっちにウロウロ、こっちにウロウロ。これではどっちつかずになると思い、今日は地衣類に絞ることにして「校庭のコケ」を手にも松本先生にくっついて歩くことにする。今回はこの「校

庭のコケ」の裏表紙で拝見しているだけの原田先生にも会えるということが楽しみの一つだった。（地衣の大御所が参加されていることなどこの時点では露知らず・・・）

地衣の方たちは、いずれもエキスパートそろいで、初心者の質問にも丁寧に答えていただき、見た地衣を「校庭のコケ」に書き込んでいく。日当たりが好きな地衣と日陰が好きなコケの見事な住み分け。必然的に参加者の



図2. 岡山城の石垣に張り付き観察する参加者。撮影：安斉唯夫。



図3. 岡山城にて記念撮影。撮影：安斉唯夫。

輪も2つにわかれる。今まで石にへばりついているのはどれも地衣で片付けて、色が違うから違う仲間だろうぐらいでそれ以上観察せずにいたが、やはり色も違えば形も違い、一つ一つ違った顔をしていることがよくわかって一歩地衣に近づけた気がした。今までウメノキゴケ、ムカデゴケ、ロウソクゴケ、ハナゴケ、ダイダイゴケ、モシゴケ、レブラゴケの仲間というので自分なりに見ていた地衣類が大筋間違いではなかったことが今回わかり嬉しかった。また、敬遠していた石にへばりついているヘリトリゴケ、トリハダゴケ、チャシブゴケの仲間の違いも教えていただいたが、さて自分で見分けられるかは、なんとも心もとない限りです。

あつという間に時間が過ぎて、岡山城の大手門前で集合写真を撮り、解散。宿泊の人たちで車5台に分乗して、目指すは明日の観察会「磐谷溪」の入り口にある今夜の宿「朝日堂」。実はここは夫の母の実家で、3代目の従兄弟が経営する宿。この夜も、また翌日の午後もはぐれる車あり、捨う場所違いがあったりして、お迎えに行ってもらったりしてすっかり迷惑をかけてしまった。けれど地の利がなかなか良いところですので、岡山の石灰岩地帯の植物観察会にはぜひご利用ください。

お腹がいっぱいになりすっかりくつろいだ所で、またまた地衣とコケとの住み分けが出現です。コケ観察会では恒例の実体顕微鏡と光学顕微鏡、図鑑などがワンセットになった「オカモス観察箱」（勝手に命名）が登場。すぐに初心者向け同定講座が開催され、熱心に取り組む姿が見られた。一方、奥に陣取られた地衣類の方々には吉村先生を中心に「地衣の行く末？」について熱い論議が交わされていた。その吉村先生とお話をしている最中にやっと、先生が保育社の「原色日本地衣植物図鑑」の著者であることに気づき、自分の迂闊さに穴があったら入

りたい気分だった。（本当に失礼しました）

翌17日は、宿をあとにそれぞれ車に分乗して「磐谷溪」へ。走る車の中から岩についている地衣類が目止まる所はさすがです。今日もさっと二手に分かれました。コケ班は谷あい、地衣班は日の当たる上へ上へと。私は、分かれ道で迷ったものの今日は石灰岩地帯のコケを見ようと谷あいへ。今まで一種類とされていたジャゴケがウラベニジャゴケ、オオジャゴケ、タカオジャゴケと三種類に分けられそうだと教わる。

後半は、また地衣班と合流して道を降りながら地衣を教えてもらう。昨日はなかったハナゴケの仲間やウチキウメノキゴケ、キウメノキゴケ、トゲウメノキゴケとウメノキゴケの仲間に出会う。見たかったトゲシバリやヤグラゴケにも出会えた。また、石にへばりついている地衣の採集の仕方と間近で拝見し、石屋さんの技術も要ることに納得。もしかすると日本初かもしれない地衣が見つかったという嬉しそうな地衣班の方たちを見て、参加者も嬉しくなった。

お弁当を食べて、電車組はここでお別れし、立石号でJR高梁駅へ送ってもらう。そのあとも残られた吉村先生、原田先生は終日観察されたようです。

コケもままならないのに地衣にまで手も染めてどうする？という私ですが、この地球上になくてはならない存在なのに、地味なためかあまり知られていないこの生物たちをこよなく愛する人たちと一緒に観察会をすることができ、またささやかですがお手伝いすることができて本当に良かったと思っています。また、このユニークな生物たち（地衣とコケ、そしてこよなくこれらを愛する人たち）に会えることを楽しみにしています。

（西平直美：岡山市）

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 48号

発行日：2004年 12月 18日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内